

「耐え忍んだ人たちは幸いです」

ヤコブ5：10—11

堀田修一 21・7・18

I 「苦難と忍耐については、主の御名によって語った預言者たちを模範にきなさい」：10。

苦難の中での忍耐。神を信じ従う人々のどの生涯を見ても、苦難と忍耐はつきものであり、それらを幸い（主の恵みと力が現れる時）として受け止めた。「わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです」マタイ5：11，12。「使徒たちを呼んで、彼らをむちで打ち、イエスの名によって語ってはならないと言い渡したうえで釈放した。そこで、使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜びながら、議会から出て行った」使徒5：41。主の御名によって神の言葉を語った者は、苦難に会い、それを耐え忍んだ。今も同じ。主の御言葉を語り、御言葉に従う時、楽な事ばかりではない。苦しみもやって来る。自分だけ特別に苦しんでいると思ひ込み、自己憐憫に陥ってはならない。世界中、日本中に主に愛され、主の為に苦しみを受けているキリストのからだに連なる仲間がたくさんいる。※この事実を思うと、主にある家族として励まされる。祈り合う交わりがある。そして最高の理解者の主がその苦しみの中で私たちと共におられ祝福して下さる。

II 「見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いだと私たちは思います。あなたがたはヨブの忍耐のことを聞き、主による結末を知っています。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられます」：11。

1. この節の「耐え忍んだ」という語は、「(逃げ出さずに) とどまる、持ちこたえる、耐える」という意味。私たちは苦しい事、いやなことからすぐに逃げ出したくなる。しかし、そこでこそ、学ぶべき霊的な学課があり（いつも貴重な学びがある）、主に拠り頼み、主と共に苦しみを負う時、後に祝福が与えられる。結実は継続の実。※例外もある。身の安全の為に逃げ出すべき時もある。「すべてのわざに、時がある」伝道者の書4：17。

2. 私たち人間は、耐え忍ばず、なるべく楽に、すぐに欲しいものを手に入れたがる。しかし、御言葉は語る→「耐え忍んだ人たちは幸いだと私たちは思います」：11。「さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜び（価値ある幸いなもの）と思いなさい。信仰がためされると忍耐（聖書は、忍耐という徳に大きな価値を置いている。なぜなら、忍耐がなく、すぐにやけになり、投げ出す、何事も人のせいにし、何事も続けないなら、神が用意しておられる祝福を受け損なうから）が生じる（神が試練や苦しみを通して私たちを忍耐強い者へ変え続けて下さる）ということ、あなたがたは知っているからです。その忍耐を完全に働かせなさい（主に祈って踏みとどまる）。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者（多くの苦しみを耐え忍ばれた主の姿に似た者）となります」ヤコブ1：2～4。

3. ヨブの忍耐。彼は、神を恐れ、悪から遠ざかっていたが（ヨブ1：1）、想像を絶する大きな試練に会った（財産を失い、若い者たちを失い、7人の息子と3人の娘を失った。1：13～19）。この時、ヨブは言った。『私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしくに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。』ヨブはこのようになっても罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった」ヨブ1：21, 22。その後、ヨブは、足の裏から頭の頂まで、悪性の腫物で打たれた。ヨブ2：7。妻からは「神をのろって死になさい」と言われたが、彼は言った。『私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざ受けなければならぬではないか。』ヨブはこのようになっても、罪を犯すようなことを口にしなかった」2：9、10。しかし、3章から、つらいつらいヨブの正直な言葉が記される→「その後、ヨブは口を開いて自分の生まれた日をのろった。ヨブは声を出して言った。私の生まれた日は滅び失せよ」3：1～3。「私の知人は全く私から離れて行った。私の親族は来なくなり、私の親しい友は私を忘れた」19：13, 14。ヨブは、神の意図が分からなかったので、嘆き、疑問を述べたが（3～31章）、神への信仰は捨てなかった。彼が理解できない状況においても、彼は神への信仰を持ち続けた。1：21、2：10、16：19～21、19：25～27。ヨブの忍耐は、卑屈で受け身的で盲目的なものではない。ヨブはもがき、疑問を抱き、時には反抗もしたが、神への信仰が消えてしまう事はなかった。「主が彼になさった結末を見た」→「ヨブは主に答えて言った。あなたには、すべてができること、あなたはどんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。…私は、自分で悟りえないことを告げました。自分でも知りえない不思議を。…今、この目であなたを見ました。それで私は自分をさげすみ、ちりと灰の中で悔いています」ヨブ42：1～6。ヨブへのとてつもない大きな試練もサタンの働きも（1：6－12、2：1－7）、友人たちが訪ねて来て、ヨブと討論した事も（2：11～）、主の計り事の中にあつた。友人たちの言葉（ヨブに悔い改めていない罪があるから、この災難が起こった。だから悔い改めなさいと責めることになった※私達は、気を付けたい。苦しんでいる人に、「それはあなたの罪のせいです」と簡単に言うてはならない。人間には分からない領域がある。私達は苦しんでいる人に寄り添う事が大切）は更なる苦しみをヨブにもたらしたが、その中で、自分を贖う方は生きておられると言った。19：25。ヨブは、想像を絶する試練を通して、以前より神ご自身を深く知るといふ最高の宝を得た。このすべてが主の計り事の中にあつた。そして「あなたがた（ヨブの友人達）が、わたしのしもべヨブのように、わたしについて確かなことを語らなかつた…わたしのしもべヨブがあなたがたのために祈る。わたしは彼の願いを受け入れるので、あなたがたの愚行（ヨブを一方向的に責めた事）報いるようなことはしない。…ヨブがその友人たち（ヨブを責めて苦しめた）の為に祈ったとき、主はヨブの繁栄を元どおりにされた。主はヨブの所有物もすべて二倍に増された」42：8、10。主がヨブの繁栄を元どおりにされたのは、ヨブがヨブを責めた友人たちのために愛をもって祈った時というのは、非常に大切な点である。主は語られた「あなたがたを呪う者（悪口を言う、非難する）たちを祝福しなさい。あなたがたを侮辱する者たちのために祈りなさい」ルカ6：28。「侮辱に対して侮辱を返さず、逆に祝福しなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのです」I ペテロ3：9。侮辱する人を神の愛で赦し祝福する時、相手も、祝福する人も、神からの祝福を受ける。※これまで神を体験して来た証し。まず私自身の心が変えられる恵み。

4. 「主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられます」ヤコ5：11。苦難における忍耐が常に物質的繁栄で報われるという意味ではない。苦しみの中で主に従い通した故に殉教の死を遂げ、主の御もとに行った多くの人々がいる。ある殉教者たちは言っている。「苦しみの炉の中にいた時ほど、神を深く知った」と。その人々は、地上での苦しみから解放され天で、慈愛に富み、憐みに満ちておられる主に迎えられ祝福を受けている。私たちには、苦難がある。人生をあきらめ、投げ出そうとする誘惑もある。その時こそ、私たちの為に苦しみを忍ばれた主を思い、主の恵みを数え、主に頼り、耐え忍び、主と共に歩みたい。主はあなたを祝福して下さる。

「彼ら（私達）が苦しむときには、いつも主も苦しみ、主の臨在の御使いが彼らを救った。その愛とあわれみによって、主は彼ら（私達）を贖い、昔からずっと彼ら（私達）を背負い、担ってくださった」

イザヤ63:9